

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	研究科の専攻の設置(国際連携専攻)								
フリガナ設置者	コリツダ'イカ'クウジン トウキョウイカシカダ'イカク 国立大学法人 東京医科歯科大学							【連携外国大学の設置者】 タイ王国 マヒドン大学	
フリガナ大学の名称	トウキョウイカシカダ'イカク'イカクイン 東京医科歯科大学大学院 (Graduate School, Tokyo Medical and Dental University)							【連携外国大学の名称】 Mahidol University (มหาวิทยาลัยมหิดล)	
大学本部の位置	東京都文京区湯島1丁目5番地45号							【連携外国大学の本部の位置】 999 Phuttamonthon 4 Road, Salaya, Nakhon Pathom 73170 Thailand	
大学の目的	本学大学院は医学、歯学及びそれらの相互関連領域に関する学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて文化の進展に寄与することを目的とする。								
新設学部等の目的	生物医学及び医学の知識のうち、特にがん治療に精通した外科学分野の専門的知識を熟知し、医療ニーズの多様化に即応しうるリサーチマインドを持った、日本及びASEAN地域の医学・医療を牽引する高度専門医療人を養成する。また、これにより日本及びASEAN地域全体にみられる喫緊の課題を解決することを目指す。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【連携外国大学の学部等名及び所在地】 Faculty of Medicine Siriraj Hospital, Mahidol University 2 Wanglang Road, Khwaeng Siriraj, Khet Bangkok Noi, Bangkok, 10700 ◇内の数字は、 母体となる研究 科全体の入学定 員等
	医歯学総合研究科 (Graduate School of Medical and Dental Sciences)	年	人	年次 人	人	博士(医学) (Doctor of Philosophy in Medical Sciences)	2020年4月 第1年次	東京都文京区湯島1丁 目5番地45号	
	東京医科歯科大学・マヒ ドン大学国際連携医学系 専攻(Joint Degree Doctoral Program in Medical Sciences between Tokyo Medical and Dental University and Mahidol University)	4	3 <346>	— —	12 <1098>				
	計		3		12				
同一設置者内における変更 状況 (定員の移行、名称の変更 等)									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	東京医科歯科大学・マヒ ドン大学国際連携医学系 専攻	講義	演習	実験・実習	計	72 単位			
		21 科目	21 科目	2 科目	44 科目				

教員	学部等の名称		専任教員等					兼任 教員等		
			教授	准教授	講師	助教	計			助手
新設	大学院医歯学総合研究科 東京医科歯科大学・マヒドン大学国際連携医学系専攻		19人 (19)	8人 (8)	16人 (16)	18人 (18)	61人 (61)	0人 (0)	13人 (13)	【連携外国大学と調整を行う専任教員の状況等】 人数：1名 職名：講師 所属：東京医科歯科大学・マヒドン大学国際連携医学系専攻
	計		19 (19)	8 (8)	16 (16)	18 (18)	61 (61)	0 (0)	13 (13)	
既設	大学院医歯学総合研究科 医歯理工保健学専攻		138 (138)	78 (78)	59 (59)	185 (185)	460 (460)	0 (0)	223 (223)	
	大学院医歯学総合研究科 医歯学専攻		105 (105)	57 (57)	53 (53)	154 (154)	369 (369)	0 (0)	187 (186)	
	大学院医歯学総合研究科 生命理工医療科学専攻		23 (23)	20 (20)	0 (0)	30 (30)	73 (73)	0 (0)	132 (132)	
	大学院医歯学総合研究科 東京医科歯科大学・チュラロンコーン大学国際連携歯学系専攻		17 (14)	3 (5)	8 (6)	10 (13)	38 (38)	0 (0)	0 (0)	
	大学院医歯学総合研究科 東京医科歯科大学・チリ大学国際連携医学系専攻		34 (31)	11 (11)	7 (8)	9 (11)	61 (61)	0 (0)	5 (10)	
	大学院保健衛生学研究科 看護先進科学専攻		7 (10)	6 (4)	3 (2)	7 (5)	23 (21)	0 (0)	63 (70)	
	大学院保健衛生学研究科 共同災害看護学専攻		1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	23 (14)	
	計		275 (278)	162 (160)	115 (114)	377 (375)	929 (927)	0 (0)	627 (625)	
合計		275 (278)	162 (160)	116 (115)	377 (375)	930 (928)	0 (0)	628 (627)		
教員以外の職員概要	職種		専任		兼任		計			
	事務職員		543人 (543)		444人 (444)		987人 (987)			
	技術職員		1536 (1536)		317 (317)		1853 (1853)			
	図書館専門職員		5 (5)		7 (7)		12 (12)			
	その他の職員		0 (0)		2 (2)		2 (2)			
計		2084 (2084)		770 (770)		2,854 (2854)				
校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用		計				
	校舎敷地	77,695 m ²	0 m ²	0 m ²		77,695 m ²				
	運動場用地	19,972 m ²	0 m ²	0 m ²		19,972 m ²				
	小計	97,667 m ²	0 m ²	0 m ²		97,667 m ²				
	その他	13,929 m ²	0 m ²	0 m ²		13,929 m ²				
合計	111,596 m ²	0 m ²	0 m ²		111,596 m ²					
校舎		専用	共用	共用する他の学校等の専用		計				
		125,398 m ² (125,398 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)		125,398 m ² (125,398 m ²)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設					
	83室	52室	556室	2室 (補助職員 人)	0室 (補助職員 人)		申請大学全体			
専任教員研究室		新設学部等の名称		室数						
		東京医科歯科大学・マヒドン大学国際連携医学系専攻		37室						
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	専攻単位での特定不能なため、申請大学全体の数		
	東京医科歯科大学・マヒドン大学国際連携医学系専攻	317,937〔139,687〕 (317,937〔139,687〕)	3,721〔2,062〕 (3,721〔2,062〕)	8,391〔7,100〕 (8,391〔7,100〕)	1,449 (1,449)	497 (497)	55,862 (55,862)			
	計	317,937〔139,687〕 (317,937〔139,687〕)	3,721〔2,062〕 (3,721〔2,062〕)	8,391〔7,100〕 (8,391〔7,100〕)	1,449 (1,449)	497 (497)	55,862 (55,862)			

図書館		面積		閲覧座席数		収納可能冊数		申請大学全体	
		5,513 m ²		433 席		377,000 冊			
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
		1,662 m ²		テニスコート、プール、武道館、柔剣道場、弓道場					
経費の 見積り 及び 維持 方法 の概 要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
	教員1人当り研究費等		-	-	-	-	-	-	
	共同研究費等		-	-	-	-	-	-	
	図書購入費	-	-	-	-	-	-	-	
	設備購入費	-	-	-	-	-	-	-	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		該当なし							
大学の名称		東京医科歯科大学							
学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
既設大学等の 状況	医歯学総合研究科 (修士課程)	年	人	年次人	人		倍		東京都文京区湯島 1-5-45
	医歯理工保健学専攻	2	131	-	257	修士 (医科学) (歯科学) (理学) (工学) (保健学) (口腔保健学) (医療管理学) (医療政策学) (グローバル健康医学)	1.03	H30年度	
	医歯理工学専攻	2	-	-	-	修士(医科学) (歯科学) (理学) (工学) (口腔保健学) (医療管理学) (医療政策学)	-	H24年度	平成30年度より 学生募集停止
	(博士課程)								
	医歯学専攻	4	181	-	724	博士 (医学) (歯学) (数理医科学) (学術)	1.17	H30年度	
	生命理工医療科学専攻	3	25	-	75	博士 (理学) (工学) (保健学)	0.40	H30年度	
	医歯学系専攻	4	-	-	-	博士 (医学) (歯学) (学術)	-	H24年度	平成30年度より 学生募集停止
	生命理工学系専攻	3	-	-	-	博士 (理学) (工学)	-	H24年度	平成30年度より 学生募集停止
	口腔機能再構築学系専攻	4	-	-	-	博士 (医学) (歯学) (学術)	-	H12年度	平成24年度より 学生募集停止
	顎顔面頭部機能再建学系専攻	4	-	-	-	博士 (医学) (歯学) (学術)	-	H11年度	平成24年度より 学生募集停止
生体支持組織学系専攻	4	-	-	-	博士 (医学) (歯学) (学術)	-	H12年度	平成24年度より 学生募集停止	
環境社会医歯学系専攻	4	-	-	-	博士 (医学) (歯学) (学術)	-	H12年度	平成24年度より 学生募集停止	

既設大学等の状況	老化制御学系専攻	4	-	-	-	博士 (医学) (歯学) (学術)	-	H12年度	平成24年度より 学生募集停止
	全人的医療開発学系 専攻	4	-	-	-	博士 (医学) (歯学) (学術)	-	H11年度	平成24年度より 学生募集停止
	生体環境応答学系専攻	4	-	-	-	博士 (医学) (歯学) (学術)	-	H12年度	平成24年度より 学生募集停止
	器官システム制御学系 専攻	4	-	-	-	博士 (医学) (歯学) (学術)	-	H12年度	平成24年度より 学生募集停止
	先端医療開発学系専攻	4	-	-	-	博士 (医学) (歯学) (学術)	-	H12年度	平成24年度より 学生募集停止
	東京医科歯科大学・チ リ大学国際連携医学 系専攻	5	3	-	15	博士 (医学)	0.33	H28年度	
	東京医科歯科大学・ チュロンコン大学 国際連携歯学系専攻	5	3	-	15	博士 (歯学)	1.00	H28年度	平成28年度8月 開設
	保健衛生学研究科 (博士課程(前期)) 生体検査科学専攻	2	-	-	-	修士 (保健学)	-	H13年度	平成30年度より 学生募集停止
	(博士課程(後期)) 総合保健看護学専攻	3	-	-	-	博士 (看護学)	-	H13年度	平成28年度より 学生募集停止
	生体検査科学専攻	3	-	-	-	博士 (保健学)	-	H13年度	平成30年度より 学生募集停止
	(博士課程) 看護先進科学専攻	5	13	-	65	博士 (看護学)	0.61	H26年度	
	共同災害看護学専攻	5	2	-	10	博士 (看護学)	0.00	H26年度	
	医学部 医学科	6	101	2年次 5	631	学士 (医学)	1.00	S26年度	東京都文京区湯島 1-5-45
	保健衛生学科	4	90	-	360	学士 (看護学) 学士 (保健学)	1.00	H元年度	
	歯学部 歯学科	6	53	5	318	学士 (歯学)	0.96	S26年度	
	口腔保健学科	4	32	2年次 5 3年次 6	155	学士 (口腔保健学)	1.03	H16年度	

<p>附属施設の概要</p>	<p>名称:医学部附属病院 目的:患者の診療を通じて医学の教育と研究を行うこと 所在地:東京都文京区湯島1-5-45 設置年月:昭和24年6月 建物 71,684㎡</p>	
	<p>名称:歯学部附属病院 目的:患者の診療を通じて歯学の教育と研究を行うこと 所在地:東京都文京区湯島1-5-45 設置年月:昭和24年6月 建物 16,734㎡</p>	
	<p>名称:生体材料工学研究所 目的:生体に用いられる物質及び材料並びに生体工学に関する学理及びその応用の研究を行うこと 所在地:東京都千代田区神田駿河台2-3-10 設置年月:昭和26年4月 建物 6,220㎡</p>	
	<p>名称:難治疾患研究所 目的:膠原病その他の難治疾患に関する学理及びその応用を研究すること 所在地:東京都千代田区神田駿河台2-3-10 設置年月:昭和48年9月 建物 10,436㎡</p>	
	<p>名称:産学連携研究センター 目的:本学の活動を活性化するために、国内外における産学連携を推進し、知的財産の創出支援、保護、維持、管理活用および社会への還元を通じて、社会に貢献すること 所在地:東京都文京区湯島1-5-45 設置年月:平成29年4月 建物 251㎡</p>	
	<p>名称:医療イノベーション推進センター 目的:本学における質の高い研究を基盤に、その成果を医療現場に迅速に提供し、さらにグローバルに展開すること 所在地:東京都文京区湯島1-5-45 設置年月:平成29年4月 建物 140㎡</p>	
	<p>名称:リサーチコアセンター 目的:本学における疾患遺伝子解析、先端機器解析及び放射線解析に関する教育、研究を行うとともに、大型研究機器、放射性同位元素等の適切な管理と、専門知識供与を通じて共同利用を総合的に推進し、もって先端的な医歯学の研究及び教育の発展に資すること、及び、若手研究者を育成すること 所在地:東京都文京区湯島1-5-45 設置年月:平成22年4月 建物 4,158㎡</p>	
	<p>名称:実験動物センター 目的:本学における医学及び歯学に関する研究のため、動物実験を行うとともに、実験動物の飼育管理及び実験動物に関する研究を行うこと 所在地:東京都文京区湯島1-5-45 設置年月:平成22年4月 建物 7,473㎡</p>	
	<p>名称:生命倫理研究センター 目的:本学における医療倫理・研究倫理・生命倫理分野における教育を実践するとともに、先進的研究の促進を図るための国内外の研究支援ネットワークを確立し、さらに医歯学研究と生命倫理に関わる諸問題についての学際的研究を展開すること 所在地:東京都文京区湯島1-5-45 設置年月:平成17年4月 建物 213㎡</p>	
	<p>名称:疾患バイオリソースセンター 目的:個別化医療の発展に寄与するための教育及び研究を行うとともに、産学官医療イノベーション研究を推進する 所在地:東京都文京区湯島1-5-45 設置年月:平成25年2月 建物: 400㎡</p>	
<p>名称:再生医療研究センター 目的:本学における再生医療の発展に寄与するための人材を育成するとともに、再生医療の開発研究と実用化研究を促進し、社会にその成果を還元すること 所在地:東京都文京区湯島1-5-45 設置年月:平成25年4月 建物: 301㎡</p>		

<p>附属施設の概要</p>	<p>名称:脳統合機能研究センター 目的:本学において、脳・神経疾患の克服を目指した共同研究を行うために、分子レベル、細胞レベル、神経回路レベル、脳高次機能レベル、及び疾患レベルの研究を融合して、脳・神経系機能の統合的解明とこれに基づく新規治療法開発を推進すると同時にこれらの融合研究を担い脳・神経疾患克服に寄与する若手研究者の人材育成を行うこと 所在地:東京都文京区湯島1-5-45 設置年月:平成19年4月 建物: 313㎡</p> <p>名称:スポーツサイエンス機構 目的:本学において、医学・歯学の緊密な連携及び協力関係のもと、スポーツ傷害及び疾病に対する予防及び診療とそれに基づく先進医療技術開発、研究、並びにアスリートの現場復帰支援を総合的に実践するため、本学の教職員が一体となって臨床・教育・研究を行う 所在地:東京都文京区湯島1-5-45 設置年月:平成26年10月 建物: 47㎡</p>	
----------------	---	--

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行う場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行う場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「-」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要(国際連携学科等)

(医歯学総合研究科東京医科歯科大学・マヒドン大学国際連携医学系専攻)

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			教員等の配置										備考			
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	申請大学					連携外国大学								
											教授	准教授	講師	助教	助手	小計	教授に相当する教員	准教授に相当する教員	講師に相当する教員	助教に相当する教員		助手に相当する教員	小計	合計
臨床基幹	臨床基幹科目 I (TMDU)		1通	東京医科歯科大学		2			○		5					5							5	
	臨床基幹科目 I (MU)		1通	マヒドン大学		2			○								1	5		1			7	7
	臨床基幹科目 II	○	2通~4通	東京医科歯科大学・マヒドン大学		5			○		5					5	1	5		1			7	12
	小計(3科目)		—			5	4	0			5	0	0	0	0	5	1	5	0	1	0	7	12	
臨床関連統計専・情報医科学	疾患予防パブリックヘルス医学概論		1前・後・2前・後	東京医科歯科大学		2			○		5		2	1		8							8	兼1 メディア・オムニバス・共同(一部)
	疫学		1前・後・2前・後	東京医科歯科大学		2			○		1		1			2							2	兼1 メディア
	臨床・遺伝統計学		1前・後・2前・後	東京医科歯科大学		2			○		1		1			2							2	メディア
	生物医学研究法		1前・後・2前・後	マヒドン大学		2			○								2			1			3	メディア
	生物医学統計概論		1前・後・2前・後	マヒドン大学		2			○								2			1			3	メディア
小計(5科目)		—			0	10	0			5	0	3	1	0	9	0	3	0	2	0	5	14		
がん医療専門科目	がん生物学・解剖学・病理特論		1前・後・2前・後	東京医科歯科大学		1			○		3					3							3	兼2 メディア・オムニバス
	低侵襲がん治療 I		1前・後・2前・後	東京医科歯科大学		1			○		1			3	2	6							6	メディア・オムニバス
	低侵襲がん治療 II		1前・後・2前・後	東京医科歯科大学		1			○		2		1			3							3	兼2 メディア・オムニバス
	臓器別がん		1前・後・2前・後	東京医科歯科大学		1			○		1	1	1	1		4							4	兼2 メディア・オムニバス
	小児・希少がん		1前・後・2前・後	東京医科歯科大学		1			○		2	2	1			5							5	兼1 メディア・オムニバス
	臨床腫瘍学		1前・後・2前・後	東京医科歯科大学		1			○		1	1				2							2	兼1 メディア
	がんゲノム		1前・後・2前・後	東京医科歯科大学		1			○		1					1							1	兼2 メディア・オムニバス
	緩和ケア・緩和医療学		1前・後・2前・後	東京医科歯科大学		1			○		1					1							1	メディア
	がんの生物学とがんの免疫学概論		1前・後・2前・後	マヒドン大学		1			○											7			7	メディア
	幹細胞治療学概論		1前・後・2前・後	マヒドン大学		1			○								1			1			2	メディア
	標準検査学概論		1前・後・2前・後	マヒドン大学		1			○											3			3	メディア
	がんの画像診断学概論		1前・後・2前・後	マヒドン大学		1			○									1		4			5	メディア
	泌尿器科ロボット支援手術		1前・後・2前・後	マヒドン大学		1			○								1			2			3	メディア
	基礎鏡視下手術概論		1前・後・2前・後	マヒドン大学		1			○								1	2		5			8	メディア
	消化器癌における学際的内視鏡診断学		1前・後・2前・後	マヒドン大学		1			○								1	2		5			8	メディア
	周術期患者管理学概論		1前・後・2前・後	マヒドン大学		1			○									2		4			6	メディア
小計(16科目)		—			0	16	0			6	4	5	3	0	18	2	7	0	21	0	30	48		

研究基幹科目	外科系専門分野	総合外科学特論	1前・後	東京医科歯科大学	4			○		1	2	2		5					5	メディア		
		消化管外科学特論	1前・後	東京医科歯科大学	4			○		1	2		1	4					4	メディア		
		肝胆膵外科学特論(TMDU)	1前・後	東京医科歯科大学	4			○		1		2		3					3	メディア		
		頭頸部外科学特論	1前・後	東京医科歯科大学	4			○		1		1		2					2	メディア		
		腎泌尿器外科学特論(TMDU)	1前・後	東京医科歯科大学	4			○		1	1		1	3					3	メディア		
		上部消化管外科学特論	1前・後	マヒドン大学	4			○							1		4		5	5	メディア	
		下部消化管外科学特論	1前・後	マヒドン大学	4			○							3		3		6	6	メディア	
		肝胆膵外科学特論(MU)	1前・後	マヒドン大学	4			○							2		5		7	7	メディア	
		血管外科学特論	1前・後	マヒドン大学	4			○							1	4		5	10	10	メディア	
		頭頸部・乳腺外科学特論	1前・後	マヒドン大学	4			○								1		8		9	9	メディア
		泌尿器外科学特論(MU)	1前・後	マヒドン大学	4			○							1		3		4	4	メディア	
小計(11科目)	—		0	44	0		—		5	5	5	2	0	17	2	11	0	26	0	39	56	
研究実践と論文作成	外科系関連医学分野	幹細胞制御特論	1前・後	東京医科歯科大学	4			○		1	1		1	3						3	メディア	
		臨床解剖学特論	1前・後	東京医科歯科大学	4			○		1			2	3						3	兼1 メディア	
		発生再生生物学特論	1前・後	東京医科歯科大学	4			○		1		1	1	3						3	メディア	
		バイオメカニクス特論	1前・後	東京医科歯科大学	4			○		1			3	4						4	メディア	
		臨床腫瘍学特論	1前・後	東京医科歯科大学	4			○		1				1						1	1	メディア
		システム薬理学特論	1前・後	マヒドン大学	4			○									1			1	1	メディア
		幹細胞科学特論	1前・後	マヒドン大学	4			○							1	1		3		5	5	メディア
小計(7科目)	—		0	28	0		—		5	1	1	7	0	14	1	1	0	4	0	6	20	
研究実践と論文作成	研究実践と論文作成(TMDU)	2通～4通	東京医科歯科大学	24				○	19	8	15	18		60							60	
	研究実践と論文作成(MU)	2通～4通	マヒドン大学	24				○						4	14		1			19	19	
	小計(2科目)	—		48	0	0		—	19	8	15	18	0	60	4	14	0	1	0	19	79	
合計(44科目)		—		53	102	0		—	19	8	15	18	0	60	4	14	0	40	0	58	118	

学位又は称号	博士(医学)	学位又は学科の分野	医学関係	
卒業要件及び履修方法	開設大学等	開設単位数(必修)	授業期間等	
<p>【修了要件】</p> <p>本専攻に4年以上在学し、72単位以上を修得するとともに、研究指導を受けて学位論文を提出し、かつ両大学が行う学位論文審査・最終試験に合格し、プログラム運営委員会、併せて両大学の権限のある研究科運営委員会等にて承認された者に、博士(医学)[Doctor of Philosophy in Medical Sciences]の学位を両大学から共同で授与する。修了すべき72単位は、コースワーク24単位以上、リサーチワーク48単位以上を修得することとし、履修方法は次のとおりとする。</p> <p>(1) 臨床基幹科目群から、選択科目である「臨床基幹科目Ⅰ(TMDU)(2単位)」を東京医科歯科大学、又はマヒドン大学で「臨床基幹科目Ⅰ(MU)(2単位)」を修得すること。</p> <p>(2) 共同開設科目である「臨床基幹科目Ⅱ(5単位)」を、学生の移動に合わせて本学及びマヒドン大学で修得すること。</p> <p>(3) 臨床統計・情報医科学関連専門科目群から、選択科目4単位以上修得すること。</p> <p>(4) がん医療専門科目群から、選択科目5単位以上履修すること。</p> <p>(5) 研究基幹科目群から、選択科目である外科系専門分野の科目8単位、又は外科系専門分野の科目4単位と外科関連医科学分野の科目4単位修得すること。</p> <p>(6) 必修科目である「研究実践と論文作成(24単位)(TMDU)・(MU)」を両大学で履修し、合計48単位修得すること。</p> <p>(7) 必要な研究指導を受け、両大学が行う学位論文審査及び最終試験に合格すること。</p> <p>【履修方法】</p> <p>(1) 第3セメスターから第7セメスターの間に、最短1セメスターから最長4セメスターの期間、連携大学に滞在し、授業科目の履修と研究を行う。</p> <p>(2) 両大学が指導教員として配置する主・副指導教員及び主・副研究担当教員とともに、主指導教員の主導のもと、学位論文執筆のための研究テーマの具体的な内容を検討し、研究計画を立てて研究を遂行する。</p>	東京医科歯科大学	80(24)	1学年の学期区分	2学期
	マヒドン大学	66(24)	1学期の授業期間	15週
	共同開設科目	5(5)	1時限の授業時間	90分

(注)

- 国際連携学科等を設置する場合は、別記様式第2号(その2の1)に代えて、この書類を作成すること。加えて、国際連携学科等を設置する大学及び連携外国大学別にこの書類を作成すること。共同開設目については、当該科目の単位を修得した場合に、単位を修得したとする大学の書類に含めること。
- 私立の大学若しくは高等専門学校に収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教育課程等の概要(国際連携学科等)

(医歯学総合研究科東京医科歯科大学・マヒドン大学国際連携医学系専攻)(東京医科歯科大学)

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			教員等の配置										備考			
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	申請大学					連携外国大学								
											教授	准教授	講師	助教	助手	小計	教授に相当する教員	准教授に相当する教員	講師に相当する教員	助教に相当する教員		助手に相当する教員	小計	合計
臨床基幹	臨床基幹科目Ⅰ(TMDU)	○	1通	東京医科歯科大学		2			○		5					5							5	
	臨床基幹科目Ⅱ		2通～4通	東京医科歯科大学・マヒドン大学	5				○		5					5	1	5		1			7	12
	小計(2科目)		—		5	2	0		—		5	0	0	0	0	5	1	5	0	1	0		7	12
臨床基幹 医学統計・情報 専門	疾患予防パブリックヘルス医学概論		1前・後・2前・後	東京医科歯科大学		2		○			5		2	1		8							8	兼1 メディア・オムニバス ・共同(一部)
	疫学		1前・後・2前・後	東京医科歯科大学		2		○			1		1			2							2	兼1 メディア
	臨床・遺伝統計学		1前・後・2前・後	東京医科歯科大学		2		○			1		1			2							2	メディア
	小計(3科目)	—			0	6	0		—		5	0	3	1	0	9	0	0	0	0	0	0	9	
がん医療 専門科目	がん生物学・解剖学・病理特論		1前・後・2前・後	東京医科歯科大学		1		○			3					3							3	兼2 メディア・オムニバス
	低侵襲がん治療Ⅰ		1前・後・2前・後	東京医科歯科大学		1		○			1		3	2		6							6	メディア・オムニバス
	低侵襲がん治療Ⅱ		1前・後・2前・後	東京医科歯科大学		1		○			2		1			3							3	兼2 メディア・オムニバス
	臓器別がん		1前・後・2前・後	東京医科歯科大学		1		○			1	1	1	1		4							4	兼2 メディア・オムニバス
	小児・希少がん		1前・後・2前・後	東京医科歯科大学		1		○			2	2	1			5							5	兼1 メディア・オムニバス
	臨床腫瘍学		1前・後・2前・後	東京医科歯科大学		1		○			1	1				2							2	兼1 メディア
	がんゲノム		1前・後・2前・後	東京医科歯科大学		1		○			1					1							1	兼2 メディア・オムニバス
	緩和ケア・緩和医療学		1前・後・2前・後	東京医科歯科大学		1		○			1					1							1	兼2 メディア・オムニバス
	小計(8科目)	—			0	8	0		—		6	4	5	3	0	18	0	0	0	0	0	0	18	
研究基幹 科目	総合外科学特論		1前・後	東京医科歯科大学		4			○		1	2	2			5							5	メディア
	消化管外科学特論		1前・後	東京医科歯科大学		4			○		1	2		1		4							4	メディア
	肝胆膵外科学特論(TMDU)		1前・後	東京医科歯科大学		4			○		1					1							1	メディア
	頭頸部外科学特論		1前・後	東京医科歯科大学		4			○		1		1			2							2	メディア
	腎泌尿器外科学特論(TMDU)		1前・後	東京医科歯科大学		4			○		1					1							1	メディア
	小計(5科目)	—			0	20	0		—		5	5	5	2	0	17	0	0	0	0	0	0	17	
	幹細胞制御特論		1前・後	東京医科歯科大学		4			○		1	1		1		3							3	メディア
	臨床解剖学特論		1前・後	東京医科歯科大学		4			○		1			2		3							3	兼1 メディア
	発生再生生物学特論		1前・後	東京医科歯科大学		4			○		1		1	1		3							3	メディア
	バイオメカニクス特論		1前・後	東京医科歯科大学		4			○		1			3		4							4	メディア
臨床腫瘍学特論		1前・後	東京医科歯科大学		4			○		1					1							1	メディア	
小計(5科目)	—			0	20	0		—		5	1	1	7	0	14	0	0	0	0	0	0	14		

研究実践と論文作成	研究実践と論文作成(TMDU)		2通~4通	東京医科歯科大学	24					○	19	8	15	18		60						60
	小計(1科目)		—		24	0	0		—		19	8	15	18	0	60	0	0	0	0	0	60
合計(24科目)			—		29	56	0		—		19	8	15	18	0	60	0	0	0	0	0	60
学位又は称号	博士(医学)				学位又は学科の分野		医学関係															
卒業要件及び履修方法					開設大学等		開設単位数(必修)		授業期間等													
【修了要件】 本専攻に4年以上在学し、72単位以上を修得するとともに、研究指導を受けて学位論文を提出し、かつ両大学が行う学位論文審査・最終試験に合格し、プログラム運営委員会、併せて両大学の権限のある研究科運営委員会等にて承認された者に、博士(医学)[Doctor of Philosophy in Medical Sciences]の学位を両大学から共同で授与する。修了すべき72単位は、コースワーク24単位以上、リサーチワーク48単位以上を修得することとし、履修方法は次のとおりとする。 (1) 臨床基幹科目群から、選択科目である「臨床基幹科目 I (TMDU)(2単位)」を東京医科歯科大学、又はマヒドン大学で「臨床基幹科目 I (MU)(2単位)」を修得すること。 (2) 共同開設科目である「臨床基幹科目 II (5単位)」を、学生の移動に合わせて本学及びマヒドン大学で修得すること。 (3) 臨床統計・情報医科学関連専門科目群から、選択科目4単位以上修得すること。 (4) がん医療専門科目群から、選択科目5単位以上履修すること。 (5) 研究基幹科目群から、選択科目である外科系専門分野の科目8単位、又は外科系専門分野の科目4単位と外科関連医科学分野の科目4単位修得すること。 (6) 必修科目である「研究実践と論文作成(24単位)(TMDU)。(MU)」を両大学で履修し、合計48単位修得すること。 (7) 必要な研究指導を受け、両大学が行う学位論文審査及び最終試験に合格すること。 【履修方法】 (1) 第3セメスターから第7セメスターの間に、最短1セメスターから最長4セメスターの期間、連携大学に滞在し、授業科目の履修と研究を行う。 (2) 両大学が指導教員として配置する主・副指導教員及び主・副研究担当教員とともに、主指導教員の主導のもと、学位論文執筆のための研究テーマの具体的な内容を検討し、研究計画を立てて研究を遂行する。	東京医科歯科大学		80(24)		1学年の学期区分		2学期															
	共同開設科目		5(5)		1学期の授業期間		15週															
					1時限の授業時間		90分															

- (注)
- 国際連携学科等を設置する場合は、別記様式第2号(その2の1)に代えて、この書類を作成すること。加えて、国際連携学科等を設置する大学及び連携外国大学別にこの書類を作成すること。共同開設科目については、当該科目の単位を修得した場合に、単位を修得したとする大学の書類に含めること。
 - 私立の大学若しくは高等専門学校に収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
 - 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
 - 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教育課程等の概要(国際連携学科等)

(医歯学総合研究科東京医科歯科大学・マヒドン大学国際連携医学系専攻)(マヒドン大学)

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			教員等の配置										備考				
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	申請大学					連携外国大学									
											教授	准教授	講師	助教	助手	小計	教授に相当する教員	准教授に相当する教員	講師に相当する教員	助教に相当する教員		助手に相当する教員	小計	合計	
科基臨 目幹床	臨床基幹科目 I (MU)		1通	マヒドン大学		2				○							1	5		1		7	7		
	小計(1科目)		—		0	2	0			—		0	0	0	0	0	0	1	5	0	1	0	7	7	
情報医 科連 目専門	生物医学研究法		1前・後・2前・後	マヒドン大学		2			○									2		1		3	3	メディア	
	生物医学統計概論		1前・後・2前・後	マヒドン大学		2			○									2		1		3	3	メディア	
	小計(2科目)		—		0	4	0			—		0	0	0	0	0	0	3	0	2	0	5	5		
がん 医療 専門 科目	がんの生物学とがんの免疫学概論		1前・後・2前・後	マヒドン大学		1			○											7		7	7	メディア	
	幹細胞治療学概論		1前・後・2前・後	マヒドン大学		1			○									1		1		2	2	メディア	
	標準検査学概論		1前・後・2前・後	マヒドン大学		1			○											3		3	3	メディア	
	がんの画像診断学概論		1前・後・2前・後	マヒドン大学		1			○									1		4		5	5	メディア	
	泌尿器科ロボット支援手術		1前・後・2前・後	マヒドン大学		1			○								1		2		5	8	8	メディア	
	基礎鏡視下手術概論		1前・後・2前・後	マヒドン大学		1			○								1	2		5		8	8	メディア	
	消化器癌における学際的内視鏡診断学		1前・後・2前・後	マヒドン大学		1			○								1	2		5		8	8	メディア	
	周術期患者管理学概論		1前・後・2前・後	マヒドン大学		1			○									2		4		6	6	メディア	
小計(8科目)		—		0	8	0			—		0	0	0	0	0	0	2	7	0	21	0	30	30		
研究基 幹科目	外科系専門分野		1前・後	マヒドン大学		4				○								1		4		5	5	メディア	
	下部消化管外科学特論		1前・後	マヒドン大学		4				○								3		3		6	6	メディア	
	肝胆膵外科学特論(MU)		1前・後	マヒドン大学		4				○								2		5		7	7	メディア	
	血管外科学特論		1前・後	マヒドン大学		4				○							1	4		5		10	10	メディア	
	頭頸部・乳腺外科学特論		1前・後	マヒドン大学		4				○								1		8		9	9	メディア	
	泌尿器外科学特論(MU)		1前・後	マヒドン大学		4				○							1		3		4		4	4	メディア
	小計(6科目)		—		0	24	0			—		0	0	0	0	0	0	2	11	0	26	0	39	39	
医外 科系 分野 連	システム薬理学特論		1前・後	マヒドン大学		4				○										1		1	1	メディア	
	幹細胞科学特論		1前・後	マヒドン大学		4				○							1	1		3		5	5	メディア	
	小計(2科目)		—		0	4	0			—		0	0	0	0	0	1	1	0	4	0	6	6		
研究実践と 論文作成	研究実践と論文作成(MU)		2通～4通	マヒドン大学		24				○							4	14		1		19	19		
	小計(1科目)		—		24	0	0			—		0	0	0	0	0	4	14	0	1	0	19	19		
合計(20科目)			—		24	42				—		0	0	0	0	0	4	14	0	40	0	58	58		

学位又は称号	博士(医学)	学位又は学科の分野	医学関係	
卒業要件及び履修方法	開設大学等	開設単位数(必修)	授業期間等	
<p>【修了要件】</p> <p>本専攻に4年以上在学し、72単位以上を修得するとともに、研究指導を受けて学位論文を提出し、かつ両大学が行う学位論文審査・最終試験に合格し、プログラム運営委員会、併せて両大学の権限のある研究科運営委員会等にて承認された者に、博士(医学)[Doctor of Philosophy in Medical Sciences]の学位を両大学から共同で授与する。修了すべき72単位は、コースワーク24単位以上、リサーチワーク48単位以上を修得することとし、履修方法は次のとおりとする。</p> <p>(1) 臨床基幹科目群から、選択科目である「臨床基幹科目 I (TMDU)(2単位)」を東京医科歯科大学、又はマヒドン大学で「臨床基幹科目 I (MU)(2単位)」を修得すること。</p> <p>(2) 共同開設科目である「臨床基幹科目 II (5単位)」を、学生の移動に合わせて本学及びマヒドン大学で修得すること。</p> <p>(3) 臨床統計・情報医科学関連専門科目群から、選択科目4単位以上修得すること。</p> <p>(4) がん医療専門科目群から、選択科目5単位以上履修すること。</p> <p>(5) 研究基幹科目群から、選択科目である外科系専門分野の科目8単位、又は外科系専門分野の科目4単位と外科関連医科学分野の科目4単位修得すること。</p> <p>(6) 必修科目である「研究実践と論文作成(24単位)(TMDU)、(MU)」を両大学で履修し、合計48単位修得すること。</p> <p>(7) 必要な研究指導を受け、両大学が行う学位論文審査及び最終試験に合格すること。</p> <p>【履修方法】</p> <p>(1) 第3セメスターから第7セメスターの間に、最短1セメスターから最長4セメスターの期間、連携大学に滞在し、授業科目の履修と研究を行う。</p> <p>(2) 両大学が指導教員として配置する主・副指導教員及び主・副研究担当教員とともに、主指導教員の主導のもと、学位論文執筆のための研究テーマの具体的な内容を検討し、研究計画を立てて研究を遂行する。</p>	マヒドン大学	66(24)	1学年の学期区分	2学期
	共同開設科目		1学期の授業期間	15週
			1時限の授業時間	90分

(注)

- 国際連携学科等を設置する場合は、別記様式第2号(その2の1)に代えて、この書類を作成すること。加えて、国際連携学科等を設置する大学及び連携外国大学別にこの書類を作成すること。共同開設科目については、当該科目の単位を修得した場合に、単位を修得したとする大学の書類に含めること。
- 私立の大学若しくは高等専門学校の出発定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

授業科目の概要(国際連携学科等)				
(東京医科歯科大学・マヒドン大学国際連携医学系専攻)				
科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
臨床基幹科目	東京医科歯科大学	臨床基幹科目 I (TMDU)	各外科学分野における最先端の外科治療の知識・技術、及び各臓器癌に関して腫瘍学的に適切な治療選択並び手術手技を学ぶ。	
	マヒドン大学	臨床基幹科目 I (MU)	外科技術や患者ケア等を学び、低侵襲手術における疾患について、外科的視点から理解する。	
	東京医科歯科大学・マヒドン大学	臨床基幹科目 II	各自の外科学専門分野のみならず、外科学専門科学の知識や考察力、基本・応用技術を幅広く修得し、国際的な視野を身につけるため、各外科学分野における最先端の外科治療の知識・技術、及び各臓器癌に関して腫瘍学的に適切な治療選択並び手術手技を学ぶ。	共同開設科目
臨床統計・情報医学関連専門科目	東京医科歯科大学	疾患予防パブリックヘルス医学概論	<p>疾患予防の研究、データサイエンス医学、実装医科学、診療、地域実践、政策領域で国際的にリーダーシップを発揮することを目指す人材が、国際的な疾病状況をふまえた上での疾患予防、データサイエンス医学、実装医科学に関わるパブリックヘルス医学の知識、技術を修得し、疾患予防の幅広い領域の研究教育、実務に携わる基本能力を獲得する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(3 岩永史朗/1回) 熱帯病予防について講義を行う。 (8 高田和生/1回) リーダーシップについて講義を行う。 (12 中村桂子/1回) グローバルヘルスにおける実装医科学総論について講義を行う。 (15 藤原武男/1回) ヘルスプロモーションについて講義を行う。 (19 吉田雅幸/1回) 医学研究倫理について講義を行う。 (32 岡田卓也・45 伊藤崇/1回)(共同) がん予防について講義を行う。 (37 清野薫子/1回) 生活習慣病予防について講義を行う。 (64 山岡昇司/1回) 感染症予防について講義を行う。</p>	オムニバス方式・共同(一部)

臨床統計・情報医科学関連専門科目	東京医科歯科大学	疫学	<p>本科目は統合先制医歯保健学を推進し、個別化先制医療を実現できる人材の養成を目的とする先制医歯理工学コース 臨床統計・バイオインフォマティクスプログラムの基礎を学ぶための授業である。</p> <p>人を対象とした生物医学研究の量的な方法論のひとつ、疫学研究における、計画、実施、分析に必要な理論的背景と実践的な方法論を扱う。受講者によるミニ講義や討論で主要なトピックを導入し、データ分析、事例研究、論文の批判的吟味などにより、実際の適用について学ぶ。また、疫学研究プロトコル作成のグループ演習を行う。</p>	
	東京医科歯科大学	臨床・遺伝統計学	<p>本科目は統合先制医歯保健学を推進し、個別化先制医療を実現できる人材の養成を目的とする先制医歯理工学コース 臨床統計・バイオインフォマティクスプログラムの基礎を学ぶための授業である。</p> <p>本科目では、臨床統計、疫学、遺伝統計に関連する生物統計学の概念や手法のうち、標本分布、信頼区間、p値、第1種過誤と第2種過誤、標本数、AUC、t検定、分散分析、カイ2乗検定、線形回帰モデル、二項ロジスティック回帰モデルなど、初歩的なものを紹介する。事前に提示した教材について受講者がミニ講義を行う。データ解析演習やケーススタディーを通して、知識を現実的な課題に適用する。統計ソフトStataの基本的な操作方法について解説する。</p>	
	マヒドン大学	生物医学研究法	<p>医療サービスにおける研究課題に対処するために使用されるさまざまな研究方法や医学研究の原則の概略を紹介する。</p>	
	マヒドン大学	生物医学統計概論	<p>学生は以下の概論を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重要な統計的検定、基本的な記述統計学及び解析統計学など、統計学の基礎知識 ・研究課題に適した統計の応用 ・臨床研究データの解析におけるデータベース、スプレッドシート、統計ソフトウェア・プログラムの役割 ・臨床研究データを入力、整理、管理、記述、分析するための統計ソフトウェアの使用 ・学生自身の研究プロジェクトの解析にこれらのスキルを応用する 	

がん医療専門科目	東京医科歯科大学	がん生物学・解剖学・病理特論	<p>がん診療の実際にあたって、近年の治療法の進歩(高精度放射線療法、低侵襲手術、分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害薬など)の土台となる基礎医学を包括的に学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんの遺伝子異常について理解する。 ・発がん物質、がん化に関連する感染症、遺伝性がんについて理解する。 ・がんの分化制御因子と、分化誘導療法について理解する。 ・がんと血管の関わり、及びがんの血管新生阻害療法について理解する。 ・細胞の運命に直結する、細胞死・細胞の寿命、細胞増殖・細胞周期、DNA損傷修復について、正常細胞とがんとの違いを重点に理解する。 ・細胞の形質転換に関する定説・新説、ならびに、がん幹細胞や関連するES細胞・iPS細胞について理解する。 ・癌の転移経路となるリンパ行路について理解する。 ・癌の動注療法に用いられる動脈配置について理解する。 ・がん診療における癌の病理診断(良性と悪性、浸潤や転移)について、その方法と診断までの過程について理解する。 ・癌の悪性度判断の重要性について、治療法との関連において理解する。 ・早期癌の診断と治療について、進行癌との対比において理解する。 ・治療による癌病巣の変化について理解する。 <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(1 秋田恵一/2回) 上記目的に応じた解剖学について講義を行う。</p> <p>(9 田中真二/2回) 上記目的に応じた分子腫瘍医学について講義を行う。</p> <p>(17 三宅智/2回) 上記目的に応じた癌の診療の実際について講義を行う。</p> <p>(62 北川 昌伸/2回) 上記目的に応じた病理学について講義を行う。</p> <p>(63 清水重臣/2回) 上記目的に応じた生物学について講義を行う。</p>	オムニバス方式
	東京医科歯科大学	低侵襲がん治療 I	<p>外科的手技に関しては低侵襲性手術の考え方や成績を示し、動画を含む映像を提示する。</p> <p>(オムニバス方式/全12回)</p> <p>(17 三宅智/2回) 腫瘍学について講義を行う。</p> <p>(29 石岡淳一郎/2回) 泌尿器疾患について講義を行う。</p> <p>(30 石橋洋則/2回) 呼吸器疾患について講義を行う。</p> <p>(40 伴大輔/2回) 肝胆膵疾患について講義を行う。</p> <p>(48 菊池章史/2回) 大腸疾患について講義を行う。</p> <p>(55 星野明弘/2回) 食道疾患について講義を行う。</p>	オムニバス方式

がん医療専門科目	東京医科歯科大学	低侵襲がん治療Ⅱ	<p>外科的手技に関しては低侵襲性手術の考え方や成績を示し、動画を含む映像を提示する。</p> <p>(オムニバス方式／全10回)</p> <p>(4 植竹宏之／2回) 大腸がんにおける抗癌剤と手術の併用について講義を行う。</p> <p>(16 三浦雅彦／2回) 放射線治療について講義を行う。</p> <p>(38 戸田一真／2回) 前立腺がんの放射線治療について講義を行う。</p> <p>(72 秋元哲夫／2回) 陽子線治療について講義を行う。</p> <p>(74 武田 篤也／2回) 定位照射について講義を行う。</p>	オムニバス方式
	東京医科歯科大学	臓器別がん	<p>臓器別のがんのそれぞれの分類、病態、診断法について概説する。外科的療法、化学療法、さらにそれらを組み合わせた集学的治療について説明し、それらの適応、目標、有用性についても述べる。また、最近の臨床研究やトピックスも交えて解説する。</p> <p>(オムニバス方式／全12回)</p> <p>(17 三宅智／2回) がんの診断・治療について講義を行う。</p> <p>(25 中島康晃／2回) 食道がんの診断・治療について講義を行う。</p> <p>(39 中川剛士／2回) 大腸がんの診断・治療について講義を行う。</p> <p>(51 中川正敏／2回) 食道がんの診断・治療について講義を行う。</p> <p>(68 若菜公雄／2回) 婦人科系がんの診断・治療について講義を行う。</p> <p>(69 木島敏樹／2回) 泌尿器系がんの診断・治療について講義を行う。</p>	オムニバス方式
	東京医科歯科大学	小児・希少がん	<p>小児・希少がんのそれぞれの分類、病態、診断法について概説する。外科的療法、化学療法、さらにそれらを組み合わせた集学的治療について説明し、それらの適応、目標、有用性についても述べる。また、最近の臨床研究やトピックスも交えて解説する。</p> <p>(オムニバス方式／全12回)</p> <p>(2 朝蔭孝宏／2回) 頭頸部の小児・希少がんの診断・治療について講義を行う。</p> <p>(17 三宅智／2回) 包括的な小児・希少がん診療について講義を行う。</p> <p>(23 高木正稔／2回) 小児・希少がんの病態について講義を行う。</p> <p>(26 並木 剛／2回) 皮膚の小児・希少がんの診断・治療について講義を行う。</p> <p>(40 伴大輔／2回) 肝胆膵の小児・希少がんの診断・治療について講義を行う。</p> <p>(71 田村郁／2回) 脳腫瘍の小児・希少がんの診断・治療について講義を行う。</p>	オムニバス方式

がん医療専門科目	東京医科歯科大学	臨床腫瘍学	様々ながんに対する薬物療法の実際、最近の動向について概説する。薬物療法を中心とした集学的治療について説明し、それらの適応、目標、有用性についても述べる。また、最近の臨床研究やトピックスも交えて解説する。	
	東京医科歯科大学	がんゲノム	種々の角度からがんゲノム及びがんプレジジョンメディシン全般を俯瞰することができるような授業を計画している。授業中の積極的なディスカッションも含めたインタラクティブな講義も行う。 (オムニバス方式／全8回) (17 三宅智／4回) がんゲノムの基礎と臨床など現状について講義を行う。 (65 池田貞勝／2回) ゲノム医療実現への現状と課題について講義を行う。 (70 谷本幸介／2回) NGS解析データのアノテーションとキュレーションについて講義を行う。	オムニバス方式
	東京医科歯科大学	緩和ケア・緩和医療学	緩和医療について、その理念、目的、意義、及び実態について概観する。また、ホスピスや緩和ケア病棟での緩和ケア、在宅での緩和ケアについて、実際の臨床現場に即して解説する。さらに、緩和医療の際の最も基本である、全人的な痛みを評価するためのQOL尺度の説明や応用、及び患者やその家族とのコミュニケーションについて、実例をまじえて講義を行う。	
	マヒドン大学	がんの生物学とがんの免疫学概論	がんの生物学と免疫学の背景を概説する。最新の治療法への応用を検討する。	
	マヒドン大学	幹細胞治療学概論	本授業では、外科患者の治療用幹細胞について総合的に理解することを目指す。組織の発達、維持、再生において機能する幹細胞の起源、特性及び調節についての教育や訓練を通じて、幹細胞の適用を独自に検討する能力を向上させる。本授業では、選択肢のない重症下肢虚血での治療的血管新生用の新生血管形成を考慮して、特に内皮前駆細胞を中心に扱う。	
	マヒドン大学	標準検査学概論	外科疾患を含む研究に関連する実験の原理と実践を学び、実験の基本原理のほか実験実習を学習する。	
	マヒドン大学	がんの画像診断学概論	外科的観点から、がんの画像診断により疾患を理解する。本授業には手術法と患者ケアも含まれる。	
	マヒドン大学	泌尿器科ロボット支援手術	・泌尿器科ロボット支援手術の分野でよくみられる疾患を学ぶ ・泌尿器科ロボット支援手術による治療法と手術を学ぶ ・泌尿器科ロボット支援手術に関する研究課題の作成 ・泌尿器科ロボット支援手術の治療に関する革新的なアイデアの創生	

がん医療専門科目		マヒドン大学	基礎鏡視下手術概論	<ul style="list-style-type: none"> ・内視鏡手術と低侵襲手術の分野でよくみられる疾患を学ぶ ・内視鏡手術と低侵襲手術による治療法と手術を学ぶ ・内視鏡手術と低侵襲手術及びこれらを用いた治療に関する研究課題の作成 ・内視鏡手術と低侵襲手術の治療に関する革新的なアイデアの創生 ・内視鏡手術と低侵襲手術の研究に应用できる分子生物学及びメタボロミクスなどの基礎科学についての見解の獲得 	
		マヒドン大学	消化器癌における学際的内視鏡診断学	<ul style="list-style-type: none"> ・消化管内視鏡治療と腹腔鏡下手術の分野にみられる複雑な疾患を学ぶ ・集学的内視鏡を用いた治療法を学ぶ ・集学的内視鏡と内視鏡治療に関する研究課題の作成 ・消化管内視鏡治療に関する革新的なアイデアの創生 ・先進的な集学的内視鏡治療の研究に应用できる分子生物学及びメタボロミクスなどの基礎科学についての見解の獲得 	
		マヒドン大学	周術期患者管理学概論	<ul style="list-style-type: none"> ・術後早期回復プログラム(ERAS)など最新の周術期ケアの概念を学ぶ ・術前、術中、術後期の外科的処置の重要な因子を学ぶ ・さまざまな手術での周術期ケアの違いや、それぞれに適応させる方法を学ぶ ・集学的チームの重要性の説明とそれらにとってどのような変化が重要であるかの定義を学ぶ ・周術期ケアでよくみられる問題への対処方法を学ぶ ・高リスク患者と高リスク手術における最新の周術期ケアの適応を学ぶ 	
研究基幹科目	外科系専門分野	東京医科歯科大学	総合外科学特論	<ol style="list-style-type: none"> 1)消化器癌及び乳癌の発生機序や進展様式を解明し、最適な治療方針を確立することを学ぶ 2)再発癌や切除不能癌に対する有効な集学的治療法を確立することを学ぶ 3)末梢血管外科学の診断、治療について、腹部外科との連携を含めて学ぶ 4)小児外科学の診断、治療について、成人外科との違いを含めて学ぶ 	
		東京医科歯科大学	消化管外科学特論	<p>診断及び治療が困難で、専門性が高い消化管疾患の臨床的診断・治療法を習得、研究開発する。また、消化器癌の成因、疫学的検討を行う。</p>	
		東京医科歯科大学	肝胆膵外科学特論(TMDU)	<p>肝胆膵外科疾患を検査・治療を通して、疾患の特異性・難治性を広く学び経験する。その臨床経験を基に、臨床及び基礎研究を通して学び、疾患の特異性・難治性を解明する。また、臨床経験や研究成果を発表して、下級生の教育にも携わる。</p>	
		東京医科歯科大学	頭頸部外科学特論	<p>頭頸部腫瘍に関する診断・治療学及びその背景となる解剖学・病理学等の基礎的事項を学び、優秀な頭頸部外科医を育成する。また、頭頸部の臨床解剖に関する研究や新しい診断技術・治療技術の開発を行い、頭頸部腫瘍に関する医療の進歩に貢献することを目的とする。実際の授業は、講義と臨床実習と研究の各種プログラムから構成される。</p>	

研究基幹科目	外科系専門分野	東京医科歯科大学	腎泌尿器外科学特論 (TMDU)	泌尿生殖器疾患の病態生理、診断法、治療法を理解し、治療計画を立案し実践する能力を学ぶ。世界の標準手術である医療用手術支援ロボット、ダヴィンチを用いたロボット支援腹腔鏡下手術と、当科で開発された泌尿器科低侵襲手術であるミニマム創内視鏡下手術を習得する。基礎実験により、泌尿生殖器疾患の治療成績向上及びQOLの維持・改善に寄与する新知見を得る。	
		マヒドン大学	上部消化管外科学特論	外科的観点から、上部消化管がんに関する疾患を学ぶ。本授業には手術法と患者ケアが含まれる。	
		マヒドン大学	下部消化管外科学特論	外科的観点から、下部消化管がんに関する疾患を学ぶ。本授業には手術法と患者ケアが含まれる。	
		マヒドン大学	肝胆膵外科学特論 (MU)	<ul style="list-style-type: none"> 肝胆膵外科領域でよくみられる疾患を学ぶ 肝胆膵疾患の治療における治療と手術を学ぶ 肝胆膵疾患とその治療に関する研究課題の作成 肝胆膵疾患治療の変革に関するアイデアの創生 肝胆膵疾患の研究に応用できる分子生物学やメタボロミクスなどの基礎科学についての見解を学ぶ 	
		マヒドン大学	血管外科学特論	<ol style="list-style-type: none"> 次世代の医療分野における血管外科の社会的ニーズを特定するための調査及び研究について学ぶ 次世代の医療分野における血管外科のニーズを満たす治療法の開発と医療機器について学ぶ 医療分野における血管外科の教育カリキュラムと評価法に対する研究開発について学ぶ 医療分野における産学連携の血管外科の開発と運営について学ぶ 血管外科治療の技術認定戦略の開発と運用について学ぶ 	
		マヒドン大学	頭頸部・乳腺外科学特論	頭頸部及び乳腺疾患に対する臨床的アプローチを体得する。放射線診断法、外科的アプローチ、補助的な局所療法または全身療法などのさまざまな管理について検討・体得する。	
		マヒドン大学	泌尿器外科学特論 (MU)	<ul style="list-style-type: none"> 泌尿器学でよくみられる疾患を学ぶ 泌尿器学での治療法と手術を学ぶ 泌尿器学に関する研究課題の作成 泌尿器学の治療に関する革新的なアイデアの創生 	
	医外科系分関連	東京医科歯科大学	幹細胞制御特論	生体組織の発生・維持・再生を司る幹細胞の起源、特性、制御に関する教授及び研究指導を通じて、生体内の正常な組織幹細胞と病態における幹細胞の総合的理解を促すとともに、幹細胞制御機構の解明と応用に向けて独創的かつ主体的に研究を推進できる人材の育成を行う。対象とする幹細胞は、主に神経幹細胞、造血幹細胞、癌幹細胞とし、幹細胞が置かれた微小環境(ニッチ)からの細胞外来性シグナルと幹細胞自身の細胞内在性プログラムの観点から授業を進める。	

研究基幹科目	外科系関連医科学分野	東京医科歯科大学	臨床解剖学特論	人体解剖を基盤とした人体構造の理解と、研究実習を通して観察結果に基づいた人体構造のわかりやすい示説を習得する。	
		東京医科歯科大学	発生再生生物学特論	最先端の生物学や医学を支える概念や研究手法を学ぶ。	
		東京医科歯科大学	バイオメカニクス特論	生体の運動と構造を力学的視点に立って研究するバイオメカニクスを基盤として、ロボット工学、制御工学、統計解析の基礎を学び、医療機器、特に低侵襲な外科手術を支援するデバイスやシステムの研究開発を推進できる能力を養う。	
		東京医科歯科大学	臨床腫瘍学特論	緩和医療学、臨床腫瘍学を概括し包括的ながん診療について系統的な知識を獲得し、腫瘍学全体を俯瞰できる能力を身につける。	
		マヒドン大学	システム薬理学特論	<ul style="list-style-type: none"> ・複雑な生物学的プロセスのシステムレベルの推論を学ぶ ・システム薬理学研究のための高度なオミクス技術を学ぶ ・オミクス測定から得たビッグデータ取り扱いの基本を学ぶ ・生体分子動態、シグナル伝達カスケード、フィードバック調節及び生物ノイズにおける計算論的なコンセプトを学ぶ 	
		マヒドン大学	幹細胞科学特論	幹細胞生物学、臨床現場での幹細胞利用の可能性、細胞レベルや分子レベルの特性を含む胚性幹細胞と成体幹細胞の幹細胞生物学、シグナル伝達、幹細胞とその微小環境との相互作用や組織ホメオスタシスでのそれらの役割、幹細胞研究に関わる基礎技術、血液疾患の標準治療としての造血幹細胞移植、血液疾患以外の疾患治療に対する幹細胞の利用可能性と限界、動物ケアにおける倫理ならびに研究への利用及び幹細胞適用の倫理的問題の包括的な見解を学ぶ。	
研究実践と論文作成	東京医科歯科大学	研究実践と論文作成 (TMDU)	<p>外科系専門分野または外科関連医科学系分野に関する特定の研究課題について、主体的な研究活動を行う。それらの結果において、科学的根拠に基づいた独創性・実践性の高い論文を作成できるよう、両大学の教員が、テレビ会議システムやE-mailメール会議等、様々な手法を用いて指導を行う。</p> <p>(1 秋田 恵一) 臨床解剖学に関する研究指導を行う。</p> <p>(2 朝蔭 孝宏) 頭頸部外科学に関する研究指導を行う。</p> <p>(3 岩永 史朗) 国際環境寄生虫病学に関する研究指導を行う。</p> <p>(4 植竹 宏之) 総合外科学に関する研究指導を行う。</p> <p>(5 川嶋 健嗣) バイオメカニクスに関する研究指導を行う。</p> <p>(6 絹笠 祐介) 消化管外科に関する研究指導を行う。</p> <p>(7 田賀 哲也) 幹細胞制御に関する研究指導を行う。</p> <p>(8 高田 和生) 先駆的医療人材育成に関する研究指導を行う。</p>		

<p>研究実践と論文作成</p>	<p>東京医科歯科大学</p>	<p>研究実践と論文作成 (TMDU)</p>	<p>(9 田中 真二) 分子腫瘍医学に関する研究指導を行う。 (10 田中 敏博) 疾患多様性遺伝学に関する研究指導を行う。 (11 田邊 稔) 肝胆膵外科学に関する研究指導を行う。 (12 中村 桂子) 国際保健医療事業開発学に関する研究指導を行う。 (13 仁科 博史) 発生再生生物学に関する研究指導を行う。 (14 藤井 靖久) 腎泌尿器外科学に関する研究指導を行う。 (15 藤原 武男) 国際健康推進医学に関する研究指導を行う。 (16 三浦 雅彦) 口腔放射線腫瘍学に関する研究指導を行う。 (17 三宅 智) 臨床腫瘍学に関する研究指導を行う。 (18 森尾 友宏) 発生発達病態学に関する研究指導を行う。 (19 吉田 雅幸) 先進倫理医学に関する研究指導を行う。 (20 石川 敏昭) 総合外科学に関する研究指導を行う。 (21 工藤 敏文) 総合外科学に関する研究指導を行う。 (22 齋藤 一隆) 腎泌尿器外科学に関する研究指導を行う。 (23 高木 正稔) 発生発達病態学に関する研究指導を行う。 (24 徳永 正則) 消化管外科に関する研究指導を行う。 (25 中島 康晃) 消化管外科に関する研究指導を行う。 (26 並木 剛) 皮膚科学に関する研究指導を行う。 (27 信久 幾夫) 幹細胞制御に関する研究指導を行う。 (28 有泉 陽介) 頭頸部外科学に関する研究指導を行う。 (29 石岡 淳一郎) 保険医療管理学に関する研究指導を行う。 (30 石橋 洋則) 呼吸器外科学に関する研究指導を行う。 (31 大野 十央) 頭頸部外科学に関する研究指導を行う。 (32 岡田 卓也) 消化管外科に関する研究指導を行う。 (33 岡本 健太郎) 総合外科学に関する研究指導を行う。 (34 川田 研郎) 消化管外科に関する研究指導を行う。 (35 工藤 篤) 肝胆膵外科学に関する研究指導を行う。 (36 倉田 盛人) 包括病理学に関する研究指導を行う。 (37 清野 薫子) 国際保健医療事業開発学に関する研究指導を行う。 (38 戸田 一真) 腫瘍放射線治療学に関する研究指導を行う。 (39 中川 剛士) 総合外科学に関する研究指導を行う。 (40 伴 大輔) 肝胆膵外科学に関する研究指導を行う。 (41 本間 謙吾) 発生再生生物学に関する研究指導を行う。 (42 森田 彩子) 国際健康推進医学に関する研究指導を行う。 (43 石原 えりか) 発生再生生物学に関する研究指導を行う。 (44 伊藤 崇) 人体病理学に関する研究指導を行う。</p>	
------------------	-----------------	-------------------------	--	--

研究実践と論文作成	東京医科歯科大学	研究実践と論文作成 (TMDU)	(45 川瀬 利弘) バイオメカニクスに関する研究指導を行う。 (46 菅野 貴皓) バイオメカニクスに関する研究指導を行う。 (47 菊池 章史) 消化管外科に関する研究指導を行う。 (48 梶 康一) 幹細胞制御に関する研究指導を行う。 (49 東海林 裕) 消化管外科に関する研究指導を行う。 (50 中川 正敏) 消化管外科に関する研究指導を行う。 (51 那須 久代) 臨床解剖学に関する研究指導を行う。 (52 馬場 裕信) 消化管外科に関する研究指導を行う。 (53 原田 理代) 臨床解剖学に関する研究指導を行う。 (54 星野 明弘) 消化管外科に関する研究指導を行う。 (55 松山 貴俊) 消化管外科に関する研究指導を行う。 (56 松山 祐輔) 国際健康推進医学に関する研究指導を行う。 (57 宮崎 哲郎) バイオメカニクスに関する研究指導を行う。 (58 山内 慎一) 消化管外科に関する研究指導を行う。 (59 山本 浩平) 包括病理学に関する研究指導を行う。 (60 吉田 宗一郎) 腎泌尿器外科学に関する研究指導を行う。	
	マヒドン大学	研究実践と論文作成 (MU)	外科系専門分野または外科関連医科学系分野に関する特定の研究課題について、主体的な研究活動を行う。それらの結果において、科学的根拠に基づいた独創性・実践性の高い論文を作成できるよう、両大学の教員が、テレビ会議システムやE-mailメール会議等、様々な手法を用いて指導を行う。	

(注)

- 1 国際連携学科等を設置する場合は、別記様式第2号(その3の1)に代えて、この書類を作成すること。加えて、国際連携学科等を設置する大学及び連携外国大学別にこの書類を作成すること。共同開設科目については、当該科目の単位を修得した場合に、単位を修得したとする大学の書類に含めること。
- 2 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 3 専門職大学等の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 4 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

授業科目の概要(国際連携学科等)				
(東京医科歯科大学・マヒドン大学国際連携医学系専攻)				
科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
臨床基幹科目	東京医科歯科大学	臨床基幹科目Ⅰ(TMDU)	各外科学分野における最先端の外科治療の知識・技術、及び各臓器癌に関して腫瘍学的に適切な治療選択並び手術手技を学ぶ。	
	東京医科歯科大学・マヒドン大学	臨床基幹科目Ⅱ	各自の外科系専門分野のみならず、外科系専門科学の知識や考察力、基本・応用技術を幅広く修得し、国際的な視野を身につけるため、各外科学分野における最先端の外科治療の知識・技術、及び各臓器癌に関して腫瘍学的に適切な治療選択並び手術手技を学ぶ。	共同開設科目
臨床統計・情報医科学関連専門科目	東京医科歯科大学	疾患予防パブリックヘルス医学概論	<p>疾患予防の研究、データサイエンス医学、実装医科学、診療、地域実践、政策領域で国際的にリーダーシップを発揮することを目指す人材が、国際的な疾病状況をふまえた上での疾患予防、データサイエンス医学、実装医科学に関わるパブリックヘルス医学の知識、技術を修得し、疾患予防の幅広い領域の研究教育、実務に携わる基本能力を獲得する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(3 岩永史朗/1回) 熱帯病予防について講義を行う。 (8 高田和生/1回) リーダーシップについて講義を行う。 (12 中村桂子/1回) グローバルヘルスにおける実装医科学総論について講義を行う。 (15 藤原武男/1回) ヘルスプロモーションについて講義を行う。 (19 吉田雅幸/1回) 医学研究倫理について講義を行う。 (32 岡田卓也・45 伊藤崇/1回)(共同) がん予防について講義を行う。 (37 清野薫子/1回) 生活習慣病予防について講義を行う。 (64 山岡昇司/1回) 感染症予防について講義を行う。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
臨床統計専門情報医科学関連	東京医科歯科大学	疫学	<p>本科目は統合先制医歯保健学を推進し、個別化先制医療を実現できる人材の養成を目的とする先制医歯理工学コース 臨床統計・バイオインフォマティクスプログラムの基礎を学ぶための授業である。</p> <p>人を対象とした生物医学研究の量的な方法論のひとつ、疫学研究における、計画、実施、分析に必要な理論的背景と実践的な方法論を扱う。受講者によるミニ講義や討論で主要なトピックを導入し、データ分析、事例研究、論文の批判的吟味などにより、実際の適用について学ぶ。また、疫学研究プロトコル作成のグループ演習を行う。</p>	

臨床 関連計 専・情 報医 科 学	東京医科 歯科大学	臨床・遺伝統計学	<p>本科目は統合先制医歯保健学を推進し、個別化先制医療を実現できる人材の養成を目的とする先制医歯理工学コース 臨床統計・バイオインフォマティクスプログラムの基礎を学ぶための授業である。</p> <p>本科目では、臨床統計、疫学、遺伝統計に関連する生物統計学の概念や手法のうち、標本分布、信頼区間、p値、第1種過誤と第2種過誤、標本数、AUC、t検定、分散分析、カイ2乗検定、線形回帰モデル、二項ロジスティック回帰モデルなど、初歩的なものを紹介する。事前に提示した教材について受講者がミニ講義を行う。データ解析演習やケーススタディーを通して、知識を現実的な課題に適用する。統計ソフトStataの基本的な操作方法について解説する。</p>	
がん 医療 専 門 科 目	東京医科 歯科大学	がん生物学・解剖学・ 病理特論	<p>がん診療の実際にあたって、近年の治療法の進歩(高精度放射線療法、低侵襲手術、分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害薬など)の土台となる基礎医学を包括的に学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんの遺伝子異常について理解する。 ・発がん物質、がん化に関連する感染症、遺伝性がんについて理解する。 ・がんの分化制御因子と、分化誘導療法について理解する。 ・がんと血管の関わり、及びがんの血管新生阻害療法について理解する。 ・細胞の運命に直結する、細胞死・細胞の寿命、細胞増殖・細胞周期、DNA損傷修復について、正常細胞とがんとの違いを重点に理解する。 ・細胞の形質転換に関する定説・新説、ならびに、がん幹細胞や関連するES細胞・iPS細胞について理解する。 ・癌の転移経路となるリンパ行路について理解する。 ・癌の動注療法に用いられる動脈配置について理解する。 ・がん診療における癌の病理診断(良性と悪性、浸潤や転移)について、その方法と診断までの過程について理解する。 ・癌の悪性度判断の重要性について、治療法との関連において理解する。 ・早期癌の診断と治療について、進行癌との対比において理解する。 ・治療による癌病巣の変化について理解する。 <p>(オムニバス方式／全10回)</p> <p>(1 秋田恵一／2回) 上記目的に応じた解剖学について講義を行う。</p> <p>(9 田中真二／2回) 上記目的に応じた分子腫瘍医学について講義を行う。</p> <p>(17 三宅智／2回) 上記目的に応じた癌の診療の実際について講義を行う。</p> <p>(62 北川 昌伸／2回) 上記目的に応じた病理学について講義を行う。</p> <p>(63 清水重臣／2回) 上記目的に応じた生物学について講義を行う。</p>	オムニバス方式

がん医療専門科目	東京医科歯科大学	低侵襲がん治療Ⅰ	<p>外科的手技に関しては低侵襲性手術の考え方や成績を示し、動画を含む映像を提示する。</p> <p>(オムニバス方式／全12回)</p> <p>(17 三宅智／2回) 腫瘍学について講義を行う。 (29 石岡淳一郎／2回) 泌尿器疾患について講義を行う。 (30 石橋洋則／2回) 呼吸器疾患について講義を行う。 (40 伴大輔／2回) 肝胆膵疾患について講義を行う。 (48 菊池章史／2回) 大腸疾患について講義を行う。 (55 星野明弘／2回) 食道疾患について講義を行う。</p>	オムニバス方式
	東京医科歯科大学	低侵襲がん治療Ⅱ	<p>外科的手技に関しては低侵襲性手術の考え方や成績を示し、動画を含む映像を提示する。</p> <p>(オムニバス方式／全10回)</p> <p>(4 植竹宏之／2回) 大腸がんにおける抗癌剤と手術の併用について講義を行う。 (16 三浦雅彦／2回) 放射線治療について講義を行う。 (38 戸田一真／2回) 前立腺がんの放射線治療について講義を行う。 (72 秋元哲夫／2回) 陽子線治療について講義を行う。 (74 武田 篤也／2回) 定位照射について講義を行う。</p>	オムニバス方式
	東京医科歯科大学	臓器別がん	<p>臓器別のがんのそれぞれの分類、病態、診断法について概説する。外科的療法、化学療法、さらにそれらを組み合わせた集学的治療について説明し、それらの適応、目標、有用性についても述べる。また、最近の臨床研究やトピックスも交えて解説する。</p> <p>(オムニバス方式／全12回)</p> <p>(17 三宅智／2回) がんの診断・治療について講義を行う。 (25 中島康晃／2回) 食道がんの診断・治療について講義を行う。 (39 中川剛士／2回) 大腸がんの診断・治療について講義を行う。 (51 中川正敏／2回) 食道がんの診断・治療について講義を行う。 (68 若菜公雄／2回) 婦人科系がんの診断・治療について講義を行う。 (69 木島敏樹／2回) 泌尿器系がんの診断・治療について講義を行う。</p>	オムニバス方式

がん医療専門科目	東京医科歯科大学	小児・希少がん	<p>小児・希少がんのそれぞれの分類、病態、診断法について概説する。外科的療法、化学療法、さらにそれらを組み合わせた集学的治療について説明し、それらの適応、目標、有用性についても述べる。また、最近の臨床研究やトピックスも交えて解説する。</p> <p>(オムニバス方式／全12回)</p> <p>(2 朝蔭孝宏／2回) 頭頸部の小児・希少がんの診断・治療について講義を行う。</p> <p>(17 三宅智／2回) 包括的な小児・希少がん診療について講義を行う。</p> <p>(23 高木正稔／2回) 小児・希少がんの病態について講義を行う。</p> <p>(26 並木 剛／2回) 皮膚の小児・希少がんの診断・治療について講義を行う。</p> <p>(40 伴大輔／2回) 肝胆膵の小児・希少がんの診断・治療について講義を行う。</p> <p>(71 田村郁／2回) 脳腫瘍の小児・希少がんの診断・治療について講義を行う。</p>	オムニバス方式	
	東京医科歯科大学	臨床腫瘍学	<p>様々ながんに対する薬物療法の実際、最近の動向について概説する。薬物療法を中心とした集学的治療について説明し、それらの適応、目標、有用性についても述べる。また、最近の臨床研究やトピックスも交えて解説する。</p>		
	東京医科歯科大学	がんゲノム	<p>種々の角度からがんゲノム及びがんプレジジョンメディシン全般を俯瞰することができるような授業を計画している。授業中の積極的なディスカッションも含めたインタラクティブな講義も行う。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(17 三宅智／4回) がんゲノムの基礎と臨床など現状について講義を行う。</p> <p>(65 池田貞勝／2回) ゲノム医療実現への現状と課題について講義を行う。</p> <p>(70 谷本幸介／2回) NGS解析データのアノテーションとキュレーションについて講義を行う。</p>	オムニバス方式	
がん医療専門科目	東京医科歯科大学	緩和ケア・緩和医療学	<p>緩和医療について、その理念、目的、意義、及び実態について概観する。また、ホスピスや緩和ケア病棟での緩和ケア、在宅での緩和ケアについて、実際の臨床現場に即して解説する。さらに、緩和医療の際の最も基本である、全人的な痛みを評価するためのQOL尺度の説明や応用、及び患者やその家族とのコミュニケーションについて、実例をまじえて講義を行う。</p>		
研究基幹科目	外科系専門分野	東京医科歯科大学	総合外科学特論	<p>1)消化器癌及び乳癌の発生機序や進展様式を解明し、最適な治療方針を確立することを学ぶ</p> <p>2)再発癌や切除不能癌に対する有効な集学的治療法を確立することを学ぶ</p> <p>3)末梢血管外科学の診断、治療について、腹部外科との連携を含めて学ぶ</p> <p>4)小児外科学の診断、治療について、成人外科との違いを含めて学ぶ</p>	

研究基幹科目	外科系専門分野	東京医科歯科大学	消化管外科学特論	診断及び治療が困難で、専門性が高い消化管疾患の臨床的診断・治療法を習得、研究開発する。また、消化器癌の成因、疫学的検討を行う。	
		東京医科歯科大学	肝胆膵外科学特論 (TMDU)	肝胆膵外科疾患を検査・治療法を通して、疾患の特異性・難治性を広く学び経験する。その臨床経験を基に、臨床及び基礎研究を通して学び、疾患の特異性・難治性を解明する。また、臨床経験や研究成果を発表して、下級生の教育にも携わる。	
		東京医科歯科大学	頭頸部外科学特論	頭頸部腫瘍に関する診断・治療学及びその背景となる解剖学・病理学等の基礎的事項を学び、優秀な頭頸部外科医を育成する。また、頭頸部の臨床解剖に関する研究や新しい診断技術・治療技術の開発を行い、頭頸部腫瘍に関する医療の進歩に貢献することを目的とする。実際の授業は、講義と臨床実習と研究の各種プログラムから構成される。	
		東京医科歯科大学	腎泌尿器外科学特論 (TMDU)	泌尿生殖器疾患の病態生理、診断法、治療法を理解し、治療計画を立案し実践する能力を学ぶ。世界の標準手術である医療用手術支援ロボット、ダヴィンチを用いたロボット支援腹腔鏡下手術と、当科で開発された泌尿器科低侵襲手術であるミニマム創内視鏡下手術を習得する。基礎実験により、泌尿生殖器疾患の治療成績向上及びQOLの維持・改善に寄与する新知見を得る。	
	外科系関連医科学分野	東京医科歯科大学	幹細胞制御特論	生体組織の発生・維持・再生を司る幹細胞の起源、特性、制御に関する教授及び研究指導を通じて、生体内の正常な組織幹細胞と病態における幹細胞の総合的理解を促すとともに、幹細胞制御機構の解明と応用に向けて独創的かつ主体的に研究を推進できる人材の育成を行う。対象とする幹細胞は、主に神経幹細胞、造血幹細胞、癌幹細胞とし、幹細胞が置かれた微小環境(ニッチ)からの細胞外来性シグナルと幹細胞自身の細胞内在性プログラムの観点から授業を進める。	
		東京医科歯科大学	臨床解剖学特論	人体解剖を基盤とした人体構造の理解と、研究実習を通して観察結果に基づいた人体構造のわかりやすい示説を習得する。	
		東京医科歯科大学	発生再生生物学特論	最先端の生物学や医学を支える概念や研究手法を学ぶ。	
		東京医科歯科大学	バイオメカニクス特論	生体の運動と構造を力学的視点に立って研究するバイオメカニクスを基盤として、ロボット工学、制御工学、統計解析の基礎を学び、医療機器、特に低侵襲な外科手術を支援するデバイスやシステムの研究開発を推進できる能力を養う。	

研究基幹科目	医科系関連 外科系分野	東京医科 歯科大学	臨床腫瘍学特論	緩和医療学、臨床腫瘍学を概括し包括的ながん診療について系統的な知識を獲得し、腫瘍学全体を俯瞰できる能力を身につける。	
研究実践と論文作成	東京医科 歯科大学	研究実践と論文作成 (TMDU)	<p>外科系専門分野または外科関連医科学系分野に関する特定の研究課題について、主体的な研究活動を行う。それらの結果において、科学的根拠に基づいた独創性・実践性の高い論文を作成できるよう、両大学の教員が、テレビ会議システムやE-mailメール会議等、様々な手法を用いて指導を行う。</p> <p>(1 秋田 恵一) 臨床解剖学に関する研究指導を行う。 (2 朝蔭 孝宏) 頭頸部外科学に関する研究指導を行う。 (3 岩永 史朗) 国際環境寄生虫病学に関する研究指導を行う。 (4 植竹 宏之) 総合外科学に関する研究指導を行う。 (5 川嶋 健嗣) バイオメカニクスに関する研究指導を行う。 (6 絹笠 祐介) 消化管外科に関する研究指導を行う。 (7 田賀 哲也) 幹細胞制御に関する研究指導を行う。 (8 高田 和生) 先駆的医療人材育成に関する研究指導を行う。 (9 田中 真二) 分子腫瘍医学に関する研究指導を行う。 (10 田中 敏博) 疾患多様性遺伝学に関する研究指導を行う。 (11 田邊 稔) 肝胆膵外科学に関する研究指導を行う。 (12 中村 桂子) 国際保健医療事業開発学に関する研究指導を行う。 (13 仁科 博史) 発生再生生物学に関する研究指導を行う。 (14 藤井 靖久) 腎泌尿器外科学に関する研究指導を行う。 (15 藤原 武男) 国際健康推進医学に関する研究指導を行う。 (16 三浦 雅彦) 口腔放射線腫瘍学に関する研究指導を行う。 (17 三宅 智) 臨床腫瘍学に関する研究指導を行う。 (18 森尾 友宏) 発生発達病態学に関する研究指導を行う。 (19 吉田 雅幸) 先進倫理医科学に関する研究指導を行う。 (20 石川 敏昭) 総合外科学に関する研究指導を行う。 (21 工藤 敏文) 総合外科学に関する研究指導を行う。 (22 齋藤 一隆) 腎泌尿器外科学に関する研究指導を行う。 (23 高木 正稔) 発生発達病態学に関する研究指導を行う。 (24 徳永 正則) 消化管外科に関する研究指導を行う。 (25 中島 康晃) 消化管外科に関する研究指導を行う。 (26 並木 剛) 皮膚科学に関する研究指導を行う。 (27 信久 幾夫) 幹細胞制御に関する研究指導を行う。 (28 有泉 陽介) 頭頸部外科学に関する研究指導を行う。 (29 石岡 淳一郎) 保険医療管理学に関する研究指導を行う。</p>		

<p style="text-align: center;">研究 実践 と 論文 作成</p>	<p style="text-align: center;">東京医科 歯科大学</p>	<p style="text-align: center;">研究実践と論文作成 (TMDU)</p>	<p>(30 石橋 洋則) 呼吸器外科学に関する研究指導を行う。 (31 大野 十央) 頭頸部外科学に関する研究指導を行う。 (32 岡田 卓也) 消化管外科に関する研究指導を行う。 (33 岡本 健太郎) 総合外科学に関する研究指導を行う。 (34 川田 研郎) 消化管外科に関する研究指導を行う。 (35 工藤 篤) 肝胆膵外科学に関する研究指導を行う。 (36 倉田 盛人) 包括病理学に関する研究指導を行う。 (37 清野 薫子) 国際保健医療事業開発学に関する研究指導を行う。 (38 戸田 一真) 腫瘍放射線治療学に関する研究指導を行う。 (39 中川 剛士) 総合外科学に関する研究指導を行う。 (40 伴 大輔) 肝胆膵外科学に関する研究指導を行う。 (41 本間 謙吾) 発生再生生物学に関する研究指導を行う。 (42 森田 彩子) 国際健康推進医学に関する研究指導を行う。 (43 石原 えりか) 発生再生生物学に関する研究指導を行う。 (44 伊藤 崇) 人体病理学に関する研究指導を行う。 (45 川瀬 利弘) バイオメカニクスに関する研究指導を行う。 (46 菅野 貴皓) バイオメカニクスに関する研究指導を行う。 (47 菊池 章史) 消化管外科に関する研究指導を行う。 (48 梶 康一) 幹細胞制御に関する研究指導を行う。 (49 東海林 裕) 消化管外科に関する研究指導を行う。 (50 中川 正敏) 消化管外科に関する研究指導を行う。 (51 那須 久代) 臨床解剖学に関する研究指導を行う。 (52 馬場 裕信) 消化管外科に関する研究指導を行う。 (53 原田 理代) 臨床解剖学に関する研究指導を行う。 (54 星野 明弘) 消化管外科に関する研究指導を行う。 (55 松山 貴俊) 消化管外科に関する研究指導を行う。 (56 松山 祐輔) 国際健康推進医学に関する研究指導を行う。 (57 宮崎 哲郎) バイオメカニクスに関する研究指導を行う。 (58 山内 慎一) 消化管外科に関する研究指導を行う。 (59 山本 浩平) 包括病理学に関する研究指導を行う。 (60 吉田 宗一郎) 腎泌尿器外科学に関する研究指導を行う。</p>	
--	--	---	--	--

(注)

- 1 国際連携学科等を設置する場合は、別記様式第2号(その3の1)に代えて、この書類を作成すること。加えて、国際連携学科等を設置する大学及び連携外国大学別にこの書類を作成すること。共同開設科目については、当該科目の単位を修得した場合に、単位を修得したとする大学の書類に含めること。
- 2 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 3 専門職大学等の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 4 私立の大学若しくは高等専門学校に収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

授業科目の概要(国際連携学科等)				
(東京医科歯科大学・マヒドン大学国際連携医学系専攻)				
科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
臨床基幹科目	マヒドン大学	臨床基幹科目 I (MU)	外科技術や患者ケア等を学び、低侵襲手術における疾患について、外科的視点から理解する。	
臨床統計・情報医科学関連専門科目	マヒドン大学	生物医学研究法	医療サービスにおける研究課題に対処するために使用されるさまざまな研究方法や医学研究の原則の概略を紹介する。	
	マヒドン大学	生物医学統計概論	学生は以下の概論を学ぶ。 ・重要な統計的検定、基本的な記述統計学及び解析統計学など、統計学の基礎知識 ・研究課題に適した統計の応用 ・臨床研究データの解析におけるデータベース、スプレッドシート、統計ソフトウェア・プログラムの役割 ・臨床研究データを入力、整理、管理、記述、分析するための統計ソフトウェアの使用 ・学生自身の研究プロジェクトの解析にこれらのスキルを応用する	
がん医療専門科目	マヒドン大学	がんの生物学とがんの免疫学概論	がんの生物学と免疫学の背景を概説する。最新の治療法への応用を検討する。	
	マヒドン大学	幹細胞治療学概論	本授業では、外科患者の治療用幹細胞について総合的に理解することを目指す。組織の発達、維持、再生において機能する幹細胞の起源、特性及び調節についての教育や訓練を通じて、幹細胞の適用を独自に検討する能力を向上させる。本授業では、選択肢のない重症下肢虚血での治療的血管新生用の新生血管形成を考慮して、特に内皮前駆細胞を中心に扱う。	
	マヒドン大学	標準検査学概論	外科疾患を含む研究に関連する実験の原理と実践を学び、実験の基本原理のほか実験実習を学習する。	
	マヒドン大学	がんの画像診断学概論	外科的観点から、がんの画像診断により疾患を理解する。本授業には手術法と患者ケアも含まれる。	

がん医療専門科目	マヒドン大学	泌尿器科ロボット支援手術	<ul style="list-style-type: none"> ・泌尿器科ロボット支援手術の分野でよくみられる疾患を学ぶ ・泌尿器科ロボット支援手術による治療法と手術を学ぶ ・泌尿器科ロボット支援手術に関する研究課題の作成 ・泌尿器科ロボット支援手術の治療に関する革新的なアイデアの創生 		
	マヒドン大学	基礎鏡視下手術概論	<ul style="list-style-type: none"> ・内視鏡手術と低侵襲手術の分野でよくみられる疾患を学ぶ ・内視鏡手術と低侵襲手術による治療法と手術を学ぶ ・内視鏡手術と低侵襲手術及びこれらを用いた治療に関する研究課題の作成 ・内視鏡手術と低侵襲手術の治療に関する革新的なアイデアの創生 ・内視鏡手術と低侵襲手術の研究に応用できる分子生物学及びメタボロミクスなどの基礎科学についての見解の獲得 		
がん医療専門科目	マヒドン大学	消化器癌における学際的内視鏡診断学	<ul style="list-style-type: none"> ・消化管内視鏡治療と腹腔鏡下手術の分野にみられる複雑な疾患を学ぶ ・集学的内視鏡を用いた治療法を学ぶ ・集学的内視鏡と内視鏡治療に関する研究課題の作成 ・消化管内視鏡治療に関する革新的なアイデアの創生 ・先進的な集学的内視鏡治療の研究に応用できる分子生物学及びメタボロミクスなどの基礎科学についての見解の獲得 		
	マヒドン大学	周術期患者管理学概論	<ul style="list-style-type: none"> ・術後早期回復プログラム(ERAS)など最新の周術期ケアの概念を学ぶ ・術前、術中、術後期の外科的処置の重要な因子を学ぶ ・さまざまな手術での周術期ケアの違いや、それぞれに適応させる方法を学ぶ ・集学的チームの重要性の説明とそれらにとってどのような変化が重要であるかの定義を学ぶ ・周術期ケアでよくみられる問題への対処方法を学ぶ ・高リスク患者と高リスク手術における最新の周術期ケアの適応を学ぶ 		
研究基幹科目	外科系専門分野	マヒドン大学	上部消化管外科学特論	<ul style="list-style-type: none"> ・外科的観点から、上部消化管がんに関する疾患を学ぶ。本授業には手術法と患者ケアが含まれる。 	
		マヒドン大学	下部消化管外科学特論	<ul style="list-style-type: none"> ・外科的観点から、下部消化管がんに関する疾患を学ぶ。本授業には手術法と患者ケアが含まれる。 	
		マヒドン大学	肝胆膵外科学特論(MU)	<ul style="list-style-type: none"> ・肝胆膵外科領域でよくみられる疾患を学ぶ ・肝胆膵疾患の治療における治療と手術を学ぶ ・肝胆膵疾患とその治療に関する研究課題の作成 ・肝胆膵疾患治療の変革に関するアイデアの創生 ・肝胆膵疾患の研究に応用できる分子生物学やメタボロミクスなどの基礎科学についての見解を学ぶ 	

研究基幹科目	外科系専門分野	マヒドン大学	血管外科学特論	1. 次世代の医療分野における血管外科の社会的ニーズを特定するための調査及び研究について学ぶ 2. 次世代の医療分野における血管外科のニーズを満たす治療法の開発と医療機器について学ぶ 3. 医療分野における血管外科の教育カリキュラムと評価法に対する研究開発について学ぶ 4. 医療分野における産学連携の血管外科の開発と運営について学ぶ 5. 血管外科治療の技術認定戦略の開発と運用について学ぶ	
		マヒドン大学	頭頸部・乳腺外科学特論	頭頸部及び乳腺疾患に対する臨床的アプローチを体得する。放射線診断法、外科的アプローチ、補助的な局所療法または全身療法などのさまざまな管理について検討・体得する。	
		マヒドン大学	泌尿器外科学特論 (MU)	・泌尿器学でよくみられる疾患を学ぶ ・泌尿器学での治療法と手術を学ぶ ・泌尿器学に関する研究課題の作成 ・泌尿器学の治療に関する革新的なアイデアの創生	
		マヒドン大学	システム薬理学特論	・複雑な生物学的プロセスのシステムレベルの推論を学ぶ ・システム薬理学研究のための高度なオミクス技術を学ぶ ・オミクス測定から得たビッグデータ取り扱いの基本を学ぶ ・生体分子動態、シグナル伝達カスケード、フィードバック調節及び生物ノイズにおける計算論的なコンセプトを学ぶ	
		マヒドン大学	幹細胞科学特論	幹細胞生物学、臨床現場での幹細胞利用の可能性、細胞レベルや分子レベルの特性を含む胚性幹細胞と成体幹細胞の幹細胞生物学、シグナル伝達、幹細胞とその微小環境との相互作用や組織ホメオスタシスでのそれらの役割、幹細胞研究に関わる基礎技術、血液疾患の標準治療としての造血幹細胞移植、血液疾患以外の疾患治療に対する幹細胞の利用可能性と限界、動物ケアにおける倫理ならびに研究への利用及び幹細胞適用の倫理的問題の包括的な見解を学ぶ。	
研究実践と論文作成		マヒドン大学	研究実践と論文作成 (MU)	外科系専門分野または外科関連医科学系分野に関する特定の研究課題について、主体的な研究活動を行う。それらの結果において、科学的根拠に基づいた独創性・実践性の高い論文を作成できるよう、両大学の教員が、テレビ会議システムやE-mailメール会議等、様々な手法を用いて指導を行う。	

(注)

- 1 国際連携学科等を設置する場合は、別記様式第2号(その3の1)に代えて、この書類を作成すること。加えて、国際連携学科等を設置する大学及び連携外国大学別にこの書類を作成すること。共同開設科目については、当該科目の単位を修得した場合に、単位を修得したとする大学の書類に含めること。
- 2 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 3 専門職大学等の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 4 私立の大学若しくは高等専門学校は収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

国立大学法人東京医科歯科大学 設置認可等に関わる組織の移行表

平成31年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員
東京医科歯科大学			
医学部		2年次	
医学科（6年制）	101	5	631
保健衛生学科	90	-	360
歯学部			
歯学科（6年制）	53	5	318
		2年次	
口腔保健学科		5	
	32	3年次	155
		6	
計	276	15 3年次 6	1464
東京医科歯科大学大学院			
医歯学総合研究科			
医歯理工保健学専攻(M)	131	-	257
医歯学専攻(D)	181	-	724
生命理工医療科学専攻(D)	25	-	75
東京医科歯科大学・チリ大学国際 連携医学系専攻(D)（5年制）	3	-	15
東京医科歯科大学・チュラロン コーン大学国際連携歯学系専攻(D) （5年制）	3	-	15
保健衛生学研究科			
看護先進科学専攻(D)（5年制）	13	-	65
共同災害看護学専攻(D)（5年制）	2	-	10
計	358	-	1161

平成32年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
東京医科歯科大学				
医学部		2年次		
医学科（6年制）	101	5	631	
保健衛生学科	90	-	360	
歯学部				
歯学科（6年制）	53	5	318	
		2年次		
口腔保健学科		5		
	32	3年次	155	
		6		
計	276	15 3年次 6	1464	
東京医科歯科大学大学院				
医歯学総合研究科				
医歯理工保健学専攻(M)	131	-	257	
医歯学専攻(D)	181	-	724	
生命理工医療科学専攻(D)	25	-	75	
東京医科歯科大学・チリ大学国際 連携医学系専攻(D)（5年制）	3	-	15	
東京医科歯科大学・チュラロン コーン大学国際連携歯学系専攻(D) （5年制）	3	-	15	
<u>東京医科歯科大学・マヒドン大学 国際連携医学系専攻(D)</u>	<u>3</u>	-	<u>12</u>	専攻の設置（認可申請）
保健衛生学研究科				
看護先進科学専攻(D)（5年制）	13	-	65	
共同災害看護学専攻(D)（5年制）	2	-	10	
計	361	-	1173	